

令和5年度青森市指定管理者選定評価委員会 会議概要
(「指定管理者候補者選定」に係る審査)

1 開催日時 令和6年1月18日(木) 10:00~10:55

2 開催場所 青森市中央市民センター 3階 大会議室

3 対象施設 青森市浪岡細野山の家

4 出席者

(1) 選定評価委員 委員長 白戸高史(企画部次長)
副委員長 工藤拓実(総務部次長)
委員 船橋正明(経済部次長)
委員 大久保綾子(福祉部次長)

(2) 施設所管課(教育委員会事務局浪岡教育課)

課長 福原 崇
主幹 小笠原 敦司
主査 齊藤 寛和

(3) 制度所管課(財政課)

副参事 岩 渕 寿 哉
主幹 宮 崎 恭 次
主査 滝 口 貴 史
主査 櫻 田 博 光

5 案 件 指定管理者候補者の選定について

6 審査結果

(1) 指定管理者候補者

- ・名称 株式会社 サンアメニティ
- ・住所 東京都北区王子三丁目19番7号
- ・代表者 代表取締役 吉澤 幸夫

(2) 指定期間

令和6年4月1日から令和11年3月31日まで(5年間)

(3) 選定理由

- ・応募資格を満たしていること。
- ・「効率性について」を除いた得点(84.75点)が最低基準点(71点)以上を獲得していること。

7 主な質疑内容

委員：収支予算書によると給与について、金額が令和 6 年度から令和 9 年度の 3 年間固定であるが、この期間、昇給はないということか。

応募団体：昇給については令和 9 年度から行うこととしているが、最低賃金の変動への対応等、必要に応じて、契約した指定管理料の範囲で調整し、できる限り対応していく。

委員：細野・相沢地区の現状については把握しているか。

応募団体：説明会への参加と独自で訪問し、細野山の家のお客様から聞き取り調査するなどして、現状について把握しているところである。

委員：企業として利益的にプラスとなるとは考えにくいですが、応募した狙いは何か。

応募団体：利益的な狙いはなく、全国の先細りしていく施設を地域の人たちとしっかり連携して、しっかり管理行くことで地域貢献・社会貢献をしていくことが大事だと考えている。同時にその経験により従業員の教育・育成を進めていく狙いがある。

委員：やってみたものの、結果、撤退の可能性があるのではないか。また、今後このほかの施設でも、指定管理者に応募したいという考えはあるか。

応募団体：撤退については、利益的に赤字となろうとも考えていない。5年間しっかりとやっていく。途中撤退することは、現在自社で指定管理者を請け負っている全国 70 カ所の施設全ての管理運営について放棄することとなりかねない。また我が社は全国指定管理者協会の会員でもあることから、途中撤退はあり得ない。

委員：地域住民との強い連携が求められる。具体的な連携方法等、これまで他の地域と連携してきた事例紹介などを交えて説明してほしい。

応募団体：自社で管理運営している道の駅みさわを例に挙げると、北寄貝井の開発に係り、地元と協議を重ねて商品化した実績がある。この件に関しては、最初から商品開発の計画があったわけではなく、時間をかけて地元との連携の中から実現した企画であった。また利益を上げるために連携したわけではなく、あくまでも地域おこしのためと自負している。山の家でも是非、地域との交流・連携を深めて研鑽をして、地域との絆を深めながら人材を育てていきたい。

委員長：今後、時間のない中、人の配置を短期間でできるのか不安である。現業務員がそのまま継続して雇用されると問題ないようであるが、求人状況が思わしくなく、浪岡から青森へと地域の範囲を広げても見つからなかった場合は、最終的に社員が就業する可能性はあるか。

応募団体：求人に際して困難な状況であるが、これまでの実績として青森市内の自衛隊の駐屯地での食事提供の業務を10年間請け負ったことがあり、その当時の業務員の中でも交流が継続している方々に連絡を取り、声かけをすることが可能である。また、かつて浪岡の斎場の管理運営について7年間関わってきたこともあることから同様に連絡を取り合い、対応することは可能と考えている。

委員長：青森市での実績は（指定管理に限らず）他にあるか。

応募団体：清掃業務等で入札実績はあるが、最近では落札まで至っていない。単純に価格競争に勝つことが目標ではなく、会社の理念として、従業員の待遇を守ることが第一であると考えているということも要因としてある。

委員長：自主事業のメニューは豊富な印象であるが、他の実績についてどうであるか。

応募団体：自社で開催可能な講座は野外やスポーツ、健康に関する講座など、かなり豊富だという自負がある。山の家既存の講座は継続する内容で計画しているが、個々の講座等の実施状況や必要に応じて、地元と協議しながら、内容について柔軟に調整していきたい。

委員：企業としては問題ないと思う。問題なのは特有の地域性や、地元の人たちとの交流・連携についてだと思われる。これから円満に管理運営できるか。

施設所管課：夏から地元の協議会が辞退してからいろんな団体にも声をかけ、何度も地元の協議会を説得してきた。しかし、どこもやらない、地元はやらない、という状況を踏まえて公募をすることとした。また、特段住民から、東京の業者だから駄目だという話はないと思う。公募する前と、応募があった後、浪岡の地元選出の議員には報告しているが、すべからく、みんな「やる人がいないので仕方ない」という感じであった。地域住民等とは特段揉めないと考えている。

委員：応募書類の中で施設管理について少ししか記載がないが大丈夫か。山の家は建物が古く敷地も広いので心配である。その辺は認識しているか。

施設所管課：同規模の施設を管理運営している実績もあり、大丈夫と考えている。（応募者は募集期間中の公式な説明会に参加しており、その他にも独自に数日訪れている）

委員：人の配置・求人について、館長職の人材には心当たりがあるか。

施設所管課：現段階では確認していませんが、課としては人材について情報は得ている状況ではあることから、応募者が相談してきたら対応する予定である。